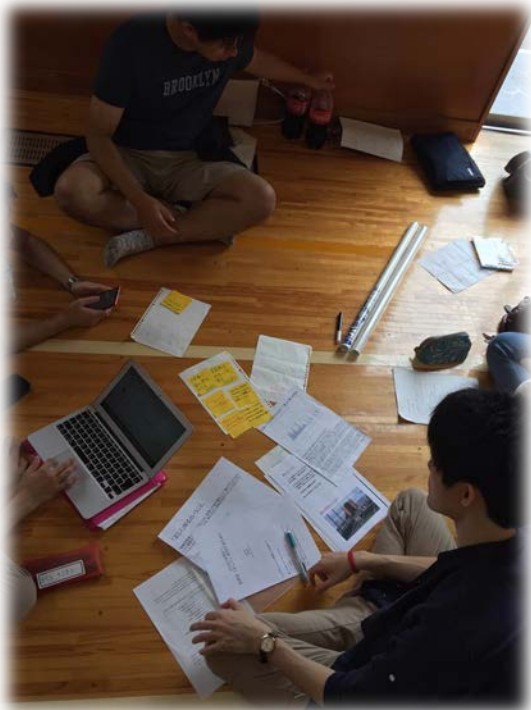


平成28年
合同ゼミ合宿参加学生
報告書



関西学院大学 産業研究所

■大学合同ゼミ合宿の概要・目的：

本合宿は大学・ゼミの垣根を越えた交流を目的に 2015 年度より始まり、関西学院大学は今年度から加わりました。講義、グループワークやディベートを通して EU への理解を深め、学生同士の交流を目的に開催。

■日時・定員

日 時：9月17日（土）～18日（日）

場 所：田上町コミュニティーセンター

宿 泊 先：湯田上温泉・「末廣館」と「初音」（新潟駅より車で約 30 分）

参 加 費：交通費（実費負担）、宿泊費 12000 円（1泊2食）および諸経費 3000 円程度
（グループワーク用各種文具代とパーティ諸費用） ※諸経費は予定です。

参加大学：北海道大学・北海学園大学・立教大学・聖学院大学・愛知学院大学
愛知県立大学・立命館大学・関西学院大学・新潟国際情報大学

レクチャー：

「欧州におけるテロリズム一負の連鎖を断ち切るには一」 関西学院大学市川顕先生

「ベルギーの今」 北海学園大学松尾秀哉先生

「テロとは何か？世界を正しく名付けるために」 北海道大学吉田徹先生

■目標（各自が設定した参加当初の目標）

- ・人とのコミュニケーションをとる
- ・振り分けられたメンバーで作ることができる最高レベルのプレゼンをする。
- ・テロについて考えること、全国各地の同世代の大学生と話し合うこと、色々な教授と話し合うこと
- ・他大学生との交流を深めるとともに、EU におけるテロリズムについて考察を深める
- ・色々な地域・考え方の人と接することで自分の視野を広げるきっかけとする。

■合宿の実施内容（学生の報告書より）

<9月17日>

- ・テロに関する 2 つの講義、テロに関するプレゼン作成
- ・アイスブレイク、レクチャー、グループワーク
- ・グループ分け、課題説明、ショートレクチャー、グループワーク、夕食、入浴
- ・グループにて、グループ発表の際のアウトラインを作る。導入としてパリ同時多発テロを紹介し、その後に市川先生の講義内容にあったテロの負の連鎖について紹介する事を決める。負の連鎖の紹介の際には、児童に分かりやすくするため学級会の様子を例に説明する事にした。最後のパートでは統合主義政策と多文化主義政策を事例として紹介するという点まで決まる。

- ・先生方のショートレクチャーを参考に、グループ内で発表の流れについて親睦を深めながら決定していった。表面的な事実や固定概念にとらわれず広い視野で考えることの必要性を小学生に知らせることをテーマとした。

9月18日

- ・テロに関する1つの講義、テロに関するプレゼン作成と発表
- ・レクチャー、グループワーク、プレゼン、講評
- ・グループワーク、ショートレクチャー、発表、打ち上げ、解散
- ・統合主義政策は”違いをなくそうとする政策”と言い換え、教育現場に宗教的モチーフを持ち込むことの是非の論争を例に説明することにし、多文化主義政策は”違いを認めようとする政策”と言い換え、シーク教徒に対するヘルメット着用義務の免除を例に説明することにした。結論としては、一見まったく異なるように見える二つの政策であるが、それぞれに長所短所があること、どちらがいいとは一概に言い切れないことを挙げ、本番の発表に臨んだ。
- ・初日に決めた発表の流れに沿って話し方、視覚的な教材づくりを意識して発表の準備をすすめた。時間が限られていたので3つのセクションに分けてそれらを統制するオーガナイザーを1人おき、発表の準備を行った。結果は入賞できなかったが、グループみんなの力を合わせての発表が出来たように思う。

■参加学生がプロジェクトを通して学んだこと（学生の報告書より）

- ・この合宿を通して、私はテロについての知識だけではなく、子供に分かりやすく教えるためには、どのように工夫すればいいのかを学ぶことができました。自分だけではできないことを周りのみんながいろいろ指摘をしてくれて、とても勉強になりました。話すことの重要性を理解することができました。ここで学べた知識を次は他のあらゆる方面（バイトやゼミなど）で生かしていきたいことを考えています。私は小学生のころ、自分や自分の親よりも年上の人にあつたときはよく親の後ろに隠れており、何も話さなかったような子供でした。しかしそのようなあどけなかつた自分から一身し、他大学の先生方や皆さんと話し合うことができたことはとても貴重だつたと思います。
- ・くじ引きで振り分けられた初対面のメンバーだったので、最初は不安だつた。テーマである「テロ」に対する知識も合宿への向き合い方もそれぞれ異なつていて、1泊2日という短い時間で議論をまとめてプレゼンを作り上げることができるか心配だつた。しかし、チームメンバーそれぞれが「自分にできること」で「チームに貢献できること」を自ら見つけ、積極的に動いてくれたことで、思ったよりもスムーズにグループワークを進めることができた。ファシリテートやアイデア出しが得意な子は他にいたので、私は知識を提供したり、イラストを書いたりすることでチームに貢献しようと努めた。また、チームの中で関西出身なのが私だけだつたので、プレゼン内で行つた劇には関西弁で参

加した。なかなか評判がよくて驚いた。自分では「普通」だと思っていることでも、自分が置かれた環境が変わると武器になるのだなと身をもって気付かされた。2日間グループワークに取り組んだ結果、プレゼンで優勝することができてとても嬉しかった。初対面のメンバーでも、それぞれのメンバーがチームに貢献できるようなリソースを提供できればよい結果が出るのだとわかった。

- 主に 2 つのことを学びました。第一は、テロという複雑な事情が絡み合ったものを、11 歳に伝えることの難しさです。テロについては、専門家や政治家の間でも様々な意見があり、単純な問題として伝えることはできません。さらに、11 歳は物事がわかり始めたが、複雑なことは理解できない年齢です。彼らに理解してもらうために、構造が似ており、身近な存在である「いじめ」を通じて伝えようとしていましたが、グループ内で議論が煮詰まらず、伝わりにくい発表となってしまいました。第二は、大学の先生は専門知識や人生哲学などたくさんを教えて下さる最強の味方だということです。話を親身になって聞いてくださり、的確なアドバイスをいただきました。
- 私のグループでは当初、テロについてなんらかの解決策を打ち出そうとしていた。しかし例として統合主義政策と多文化主義政策を打ち出し果たしてどちらの政策のほうか現実的に即しているのかを考えたところで、議論が行き詰ってしまった。しかしその結果として、政策を考える上で普遍的な正解が存在し得ないこと、社会の変化に柔軟に対応しながらその時々ベストを模索することが重要であることを学ぶことが出来た。また”負の連鎖”を主軸に発表内容を構成していく中で、社会の多様化がマイノリティを生み、マイノリティとマジョリティとのひずみがやがてテロに発展していくのでは、という考えに至ったが、その考えにいきつくまでにはグループでの活発な議論があった。学年、性別、学部での研究分野、また出身地域が多様なグループであったが、互いにニックネームをつけるなどし、積極的な議論を行った結果として今回テロについて考察を深め、グループ発表でも入賞することができた。多様化の負の側面としてのテロリズムを学ぶなかで、多様化の正の側面を実感することが出来たということが、今回の合宿の面白みであり、またひとつの成果であったように思える。
- 様々な地域出身の学生が集まったのグループワークだったこともあり、言葉の違いに戸惑いつつも、それをきっかけに皆が仲良くなれた。また、発表相手が小学生と設定されていたこともあり、地域性・世代を含めた「話し方・伝え方」が自分の中での大きなテーマとなった。どんな世代でも、どんな地域の人にもでも伝わり受け入れられる話し方をすることの難しさを感じた。地域・世代間でのギャップを埋めることのできる話し方の習得のために、これから努力していきたいと感じた。

■今後の学生生活について（学生の報告書より）

- ・私はこの合宿を通して、子供の前でどう話すのかというのを学びました。まだやり残してしまったこと、燃焼し切れなかったことはたくさんあります。しかし、それだけ多くの物事に直面することがこの合宿内において 1 番経験できました。今回経験したことを自信をもって伝えられる経験にしていきたいと思います。私はもとより論理的に考えることが苦手なことは認識していましたが、今回の合宿においてもまた改めて認識することができました。今後は合宿内でやり残してしまったことをゼミ等で実施していきたいと考えています。
- ・初対面の、スキルも意識も異なる人々と短時間で 1 つのものを作り上げるという経験は、これからとても役に立つと思う。私は 4 回生なので、あと半年で社会に出る。仕事においては、様々な立場の人や自分とは異なった経験やスキルを持つ人々と協力して 1 つのプロジェクトを作り上げることは日常茶飯事であろう。そんな時、この合宿で得た経験がきっと役に立つと思う。これからも、どんなチームで活動することになってもチームに貢献できるよう、自分の強みと磨いていきたい。
- ・膨大な知識量で議論を引っ張る人、わからなければ聞き返し、みんなの認識を一つに正す人など、様々な同世代の人がいることに刺激を受けました。これまで自分が所属するコミュニティで楽な生活をしていましたが、様々な場所に赴き、いろいろな人と会い話し合うことで自分自身の視野を広げていきたいです。また、大学生活では単位をとるための勉強しかしていませんでした。そんな私にとって、今回の合宿は周囲の優秀さ、自分の大学生活の薄っぺらさに気付かされました。今後は、学部を問わず、気になった講義には出席し、最強の味方である先生と様々な話をしたいです。
- ・ともすれば価値観の似通った居心地のいい人とばかり交流しがちになってしまうが、それではせっかくの多様化の正の側面の恩恵を受けられないばかりか、いつしか多様化の負の側面にばかり気を取られるようになってしまう。私自身もそのことを胸に留め、今後積極的に価値観の異なる人と交流し、人との交流から多くの学びを得られる人材になりたいと思った。また、統合主義政策と多文化主義政策の例は、今後社会に出ればますます答えのない難問にぶつかることが増えるだろうという、いい教訓になった。そういった難問に対応できるような知識や思考力をどのように身につけていけばよいのか、学生生活のあいだによく考えたい。
- ・今回、自分が今まで深く考えることの少なかった「テロリズム」について考えることや他大学の教授、学生と話すことを通じて自身の視野の狭さを改めて思い知った。これからも、自分から積極的に様々な考え方を持った人と接する機会を設け、“出会い”を大切にしたいと感じた。今回学んだ“伝え方”は教員採用試験での模擬授業や面接でしっかり活かしていきたいと思います。